

令和元（平成31）年度 兵庫県立明石西高等学校 学校評価

（1）手順

- ①年度当初、評価項目に対する実践目標と本年度取り組むべき具体的な方策を掲げる。
- ②7月に教職員による自己評価（中間評価）を行い、それを受けて第1回の学校評議員会を実施。学校評議員の意見を取り組みに反映させる。
- ③1月に教職員による自己評価（最終評価）を行い第2回学校評議員会を行う。（3月予定。新型コロナウイルス対応のため、書面開催）
- ④学校評議員の意見をうけ、その結果を教員で話し合い今後の改善等を考える。

（2）令和元（平成31）年度の学校評価にかかるまとめ

- ①「自律・協同・誠実」の校訓と「チャレンジ明西」のスローガンのもと、「生き生きとした魅力ある学校づくり」を推進した。特に、毎年国際交流活動に加え、ベトナム修学旅行に取り組み、成果をあげることができた。また、「総合的な探究の時間」の探究活動・発表や各教科の授業改善に向けて、全教員で取り組み、着実に授業力を向上させている。これからもさらに取り組んでいきたい。
- ②本年度から、評価項目を各年比較できるように改め、新たに中間評価を取り入れた。上半期の振り返りから下半期の改善を図り、目標達成に向け取り組んだ結果、大半の項目で中間評価より、教員による自己評価（年度末評価）が向上し、教育活動が充実した。
- ③2月後半から、新型コロナウイルス対応のため、教育活動の自粛や臨時休業があり計画した活動ができなかった。年間を通しての成果が十分に出なかったが、学校評価を通じて、教職員の学校教育目標への共通意識が高まり、学校経営への参画意識は向上した。さらに目標を具体化し、次年度も取り組んでいきたい。

○教員による自己評価結果

※評価の数値は、実践目標の達成状況を全教員により4段階で評価したものである。

（4：よくできた 3：できた 2：あまりできなかった 1：できなかった）

学校教育目標	重点目標	実践目標	評価平均	中間評価平均	令和元年度の達成状況と来年度に向けての方策		
I 学校運営	(1) 「自律・協同・誠実」の校訓のもと、夢と希望にあふれた地域に信頼される「生き生きとした魅力ある学校」づくりを推進する。 (2) 基礎・基本の充実を通して「確かな学力」を獲得し、「チャレンジ精神」を持って自己実現・進路実現を図る自立した生徒を育成する。 (3) 「豊かな心」を育み「生きる力」を培う中で、人間尊重の精神を基盤とした知・徳・体の調和のとれた国際社会に飛躍する人材を育成する。	(1) 生きる力の育成と自主性・自律性の伸長 (2) 適切な教育指導、教育内容に基づく個性の伸長と進路目標の達成 (3) 地域に信頼される、地域に開かれた学校づくりの推進 (4) 国際化時代に活躍する人材の育成を目指した教育の推進 (5) 社会の変化に対応した学校の力量の充実と教職員の資質の向上 (6) 「学校いじめ防止基本方針」の見直し及びいじめ防止等に向けた指導のさらなる充実 (7) 教職員の勤務時間の適正化のさらなる推進 (8) 特別支援教育の推進					
		領域	評価の観点	評価項目	実践目標	評価平均	中間評価平均
	1 開かれた学校づくり	①家庭・地域への情報発信	学校説明会や本校を紹介する広報誌の内容の充実を図る。	3.19	3.07	・本年度、明西まるわかりBook改訂。学校説明会やオープンハイスクールで配付した。 ・学年だよりや保健だより等の更新回数を増やした。 ・2年の修学旅行や研修旅行の活動の様子を現地より発信した。	
			ホームページを通じて、学校行事等の情報を可能な限り広報するとともに、定期的にその内容を更新する。	2.81	2.81		
	2 生徒指導	②学校評議員制度の学校運営・改善への活用	学校評議員との意見交換の場を設け、学校運営等の改善に役立てる。	2.98	3.03	・第1回学校評議員会（7/25開催）で各評議員から貴重なご意見をいただき、その後の学校教育活動に反映させることができた。今後も、学校評議員会を通じて、さまざまな視点からのご意見をいただき、学校経営改善に生かしていきたい。	
			①生徒指導方針の明確化とその評価による指導体制の推進	生徒指導方針を職員、生徒に示し、定期的にその方針の達成状況を確認しながら、生徒指導を推進する。	2.79		2.82
			②生徒の内面理解を図る指導方法の工夫	いじめに関するアンケートを学期ごとに実施するなど、生徒の抱える悩み等を把握する。	3.12		3.05
	3 進路指導	③生徒の自主・自律の精神を育む指導の工夫	部活動や生徒会活動、学校行事などの活性化を図り、生徒の主体的な活動を支援するとともに、自己有用感を高める。	2.93	3.04	・女子用ハイソックスの見直しをはじめ、校則全般を再考した。各指導週間による意識付けの効果か、苦情が激減した。LGBTへの制服対応を引き続き検討していく。 ・スマホの指導として、現状の規定を継続させていく方向である。 ・いじめ対策として、今年度いじめアンケートを1回増やした。SNSの分野では、専門家の講演を今年度も定期的に行い（3年間で4回実施）、効果があった。 ・生徒の視野を広める意味で、パラリンピックアルペンスキー選手の本堂杏実氏の講演は有効であった。これらも継続させていきたい。	
			①進路指導体制の充実	生徒のさまざまな進路目標に対応する進路指導計画を策定すると共に、「進路の手引き」等を作成し、組織的・継続的に進路指導を実施する。	2.81		2.88
	4 教職員の資質向上	②主体的な進路選択能力の育成	生徒自らが将来の進路を選択し計画する能力を育成する。さらに、それぞれにふさわしい自己実現をめざしたキャリア教育の充実を目指す。	2.81	2.79	・学年通信の進路特別号を発行して、進路意識の高揚につとめた。 ・各自の進路に応じたきめ細かな指導を行うようにした。 ・各自の興味関心に沿う学部学科調べや進路説明会を通して、進路意識の向上につとめた。	
			①実践的指導力の向上	公開授業や研究授業を充実させ、指導法や授業形態の工夫を図る。	2.95		2.91
	5 危機管理体制の整備	②計画性を持った研修の実施	各部・各委員会の協働により、学校の諸課題に関する校内研修を計画的に立案する。	2.75	2.45	・教育相談・保健安全計画のさらなる改良をかさねていく。 ・職員会議等において、タイムリーな課題について短時間ながら研修会を数回行うことができた。今後は、「教員資質向上指標」や「教職員研修計画」を踏まえてより計画的に研修を行えるよう関係職員と協議していく。	
			①実践的な研修・訓練の実施	危機管理マニュアルの点検及び改善を行う。	2.70		2.69
	6 研究活動の推進	①新学習指導要領実施に向けた授業改善等の取組	指導目標を明確にし、探究活動を取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組む。	2.88	2.68	・以前よりも「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業が多くなっている。さらに「明石西グランドデザイン（カリキュラム・マネジメント）」内の、各教科内で身につけさせたい資質・能力の項目を強く意識することが授業改善へとつながることを広める必要がある。	
7 業務改善の推進	①業務改善を全職員で実施	職員のワークライフバランスを改善し、生徒と向き合う時間を確保する。	2.47	2.16	・従事時間申告書の提出率については一定程度改善したが、さらなる改善をめざす。 ・「GPH50」に記載されている事例のうち多くの学校で採用されている事例（My定時退勤日、校務分掌の見直し、校務・業務の効率化・情報化、等に関するもの）を参考に、いっそうの取組をすすめる。		

II 教育課程	1 自ら学ぶ考える力の育成	①体験的・問題解決的な学習の展開	ふれあい育児体験やミニ・ティーチャー等の体験的な学習や、問題解決的な学習を推進する。	3.11	2.85	・例年通り1年生で幼稚園体験（3回／年）、2年生で赤ちゃん先生（3回／年）、小学校での授業体験（1回／年）を行う予定であったが、新型コロナウイルス対応の臨時休業のため、一部実施できなかった。内容、時期、回数を含めてさらに改善していきたい。 ・理型の中でも進路希望に沿った選択科目が必要となり、43回生、44回生での履修科目の変更を行った。
		②生涯教育の視点に立った実践能力の育成	学校設定科目を含め多様な選択科目を設定し、特色ある教育課程を編成するとともに、精査と見直しを行う。	2.79	2.77	
	2 基礎・基本の定着	①生徒の学力の把握と評価規準の設定	各教科で評価規準を設定し、それに基づいた評価を行う。	3.07	2.96	・評価基準は、各教科会を通じて議論され、適切に行われている。 ・今年度も3年次における選択科目のシラバスを生徒に配布したが、活用に関してはまだ不十分であるので、さらに活用を図りたい。
		②学ぶ喜びや達成感が味わえる指導方法の工夫	より計画的な指導を推進するために、シラバスや年間指導計画の整備を行う。	2.84	2.75	
	3 総合的な学習（探究）の時間	①教職員の協働体制の確立	推進委員会を定期的に開催し、3年間を見据えた計画を立てるとともに、生徒のニーズに合った学習テーマを設定し、全教員が取り組む。	2.57	2.63	・43回生がグループでの課題研究を行い、発表に取り組んだ。来年度以降、今年度の取り組みを参考に深化させたい。 ・45回生からは1年次に2単位、2年次に1単位で「総合的な探究の時間」を設定したので、カリキュラムや内容を今年度、1学期末以降教務部内で書籍、研究会参加など、検討してきた。今後、全職員に内容を知らせ、検討を加え実施していきたい。
		②創意工夫を生かした実践の展開	表現活動の場を設定するとともに、各教科の学習活動や特別活動との連携を図る。	2.80	2.55	
4 個に応じた学習指導の徹底	①評価方法の創意工夫	学習指導の過程における評価を行い、評価活動を授業の改善に生かすことにより、指導と評価の一体化を図る。	2.93	2.70	・「指導と評価の一体化」については、次年度以降、生徒へのアンケート実施を行い、「明石西グランドデザイン（カリキュラムマネジメント）」の目標と照合する必要がある、アンケート内容・実施回数の検討が課題である。	
	②指導形態の工夫	習熟度別授業や少人数指導の深化を図るとともに、チームティーチングによる指導などの工夫を行う。	2.90	2.76		
5 学校の個性化・多様化	①学科の特色をそれぞれ踏まえた教育の推進	（普通科）基礎的・基本的事項の完全定着に努め、学習に対する取組を組織的・計画的に支援する。	2.93	2.83	・公開授業週間等を通じて一定程度の授業改善を行ってきた。今後もより積極的に授業を公開し、職員相互に研究を深め効果的な指導方法の工夫・改善を図る。授業評価等の取組を継続する。 ・赤ちゃん、幼稚園、小学校での体験学習とプレゼン・ディベート等を表現力向上を目指して行っている。今後もこの取り組みを継続して行っていきたい。 ・特色のある英語の授業や地球市民特別講義、その他の行事、海外の生徒との交流を通じて、異文化理解・世界の抱える問題などについて考察を深める活動を行っており、今後も継続していきたい。	
		（普通科・教育類型）体験学習や課題研究等により、教育や社会への洞察を深める。	3.12	2.92		
		（国際人間科）特色ある専門科目や多彩な行事を通じて、グローバルな視点で考え行動できる人材の育成を目指す。	3.23	3.03		
6 カリキュラム・マネジメント	①カリキュラム・マネジメント研究の推進	本校の強みを更に生かした教育活動を展開するため、教科横断的な観点からの教育課程の編成を目指す。	2.49	2.58	・昨年度から一歩進めて、各教科内で身につけさせたい資質・能力をどのような学習活動を通じて、達成できるかを考えてもらった。次年度以降、その検証方法を考え、実行することが課題である。 ・教科学習以外の地域や生徒会、学校行事についても考える。	
III 課題教育	1 防災・安全、健康教育	①教員の防災・安全教育にかかる指導力・実践力の向上	学校安全計画の見直しを行うとともに、防災訓練や救急救命講習会が実のあるものとなるよう、教職員の意識を高め、生徒の安全意識を高める。	2.88	2.84	・防災訓練では避難の注意点を確認し、ビデオ視聴により災害の科学的理解を図った。 ・阪神・淡路大震災25年を迎え、震災当時の本校生徒の活動を振り返った。 ・適時に保健だよりを発行し生徒の健康に対する意識を高める事が出来た。特にインフルエンザ予防には効果が出た。
		②生涯にわたる健康の基礎を培う指導の工夫	「保健便り」を発行するなど保健室の機能を生かし、適切な健康管理・保健指導を行う。	3.22	3.17	
	2 人権教育	①人権教育推進体制への取組	3年間を見通した人権HR・人権福祉講演会等の充実を図り、計画的に実施する。	2.59	2.80	・各学年ごとに、1年ごとの目標を立て人権HRを行った。 ・人権福祉講演会では本堂杏実氏（パラリンピックアルペンスキー出場選手）のお話を聞く機会を設けた。
	3 情報教育	①情報モラルの育成	「サイバー講演会」や教科「情報」の授業等を通じて、スマートフォンやネットに潜む危険性を生徒に理解させる。	3.29	3.02	・継続して行っている講演会については、毎回新しい情報も加えられ、有意義である。来年度も計画を立て実施する。
	4 国際理解教育	①他国の歴史や文化の理解	海外修学旅行や研修旅行の事前事後学習で、訪問国の歴史・文化・生活習慣等について理解を深めさせる。	3.28	2.90	・初めてのベトナムの修学旅行であったが、生徒の8割以上が満足した。授業以外で英語が使える機会があり、自分の英語力の確認と普段の学習の大切さを知ったようである。 ・4月にチャーチランズ高校が明石西高を訪問し、7月・8月に語学研修実施、11月にTKCが明石西高を訪問し、相互に姉妹校交流ができた。次年度以降も継続して実施し、生徒の意欲を高めたい。
②交流事業の推進		姉妹校との相互訪問等を通じて、生徒同士の交流を深め、異文化理解の深化を図る。	3.32	3.03		
5 特別支援教育	①校内支援体制の充実	職員の研修を深め、支援が必要な生徒へのきめ細かく適切な教育的支援を行う。	2.67	2.44	・配慮の必要な生徒の情報共有を図り適時にカウンセラーの指導・助言を得ることができた。今後も、必要な時期にカウンセリングの日程を組み入れていきたい。	

- 参考 令和元（平成31）年度において学校評議員よりいただいた主な意見（R1.7.25学校評議員会）
- ・今の2年生から大学入試が大きく変わると聞いている。受験対応だけでなく、頑張ったという経験が生き抜く原動力となるよう取り組んでほしい。
 - ・生徒の安全を確保するために、警察などの関係機関との連携を密にしてほしい。
 - ・授業などで、こまめに小テスト等を実施していただいている。かなり効果は高いと思う。
 - ・自転車のマナー指導はとても大事だと思う。一時不停止や雨天時の走行マナーに危険を感じることもある。
 - ・通学区域が拡大した状況で、今の下校時刻は少し遅いのではないか。夜間に早く帰宅しようとするあまり、自転車の運転が荒くなる傾向もあるようだ。
 - ・大学での英会話留学が盛んになってきている。アジア系の人と会話できることが、グローバル人材育成に今後ますます重要になると思う。
 - ・中学校でのスマホ指導を考える上で、高校での取り組みが参考となる。情報交換をこれからも大切にしたいと思う。